

5年生 「Unit6 Where is the library?」

1. 授業の実践記録

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

【意欲を高めるための場面設定や振り返りの工夫】

英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組む児童を育てるために、「先生たちが知っていたがっている泉が丘地区の施設やお店を紹介するために、道案内をする」という場面を設定した。まず自分にとって一番身近な泉が丘地区の地図を使うことで、児童がこの活動を自分事としてとらえやすくなり、身近な先生たちへの道案内をゴールに設定することで、相手を意識し伝えたいという気持ちを強くもつことができるだろうと考えた。また、振り返りカードで毎時間単元の目標



＜おすすめの公園を教師に紹介している場面＞

写真も使って分かりやすく伝えようとしています。



＜道案内の場面＞

ジェスチャーも使って、相手に正しく伝えようとしています。

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

【相手を意識したコミュニケーション】

相手のことを考えて、自分の思いや考えを表現する児童を育てるために、相手意識をもって情報を集めたり、より正しく伝えるためにはどうすればよいかということをやペアやグループで考えたりしながら内容を推敲して、言語活動に臨めるようにした。また、児童同士のやり取りの中で、お互いのよさや改善点を伝え合い、内容だけでなく相手を意識したコミュニケーション能力も高められるように指導した。



＜協力して内容を考えている場面＞
自分が選んだお店を班の人に紹介しています。



＜グループ内練習をしている場面＞
どうやったら相手に伝わるかを考えて、練習しています。

（３）英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実現するための工夫（仮説３）

【スモールトークでの楽しいやり取り】

英語表現を用いて伝えたい思いをもつ児童を育てるために、スモールトークで意味あるやり取りの場を多くもち、児童は繰り返し英語表現を聞いたり発話したりして、表現に慣れ親しむことができた。スモールトークでは身近な題材で自然な会話を心掛けて行い、楽しい雰囲気です。ALTや児童とやり取りし、次の言語活動にもつなげることができた。



＜教師と児童とのやり取り＞
教師の持ち物が見つからない設定で児童に「～がどこにある？」と尋ねています。



＜教師同士のやり取り＞
ハンバーグを食べたい ALT に対して児童からのアイデアでびっくりドンキーを選び、道案内をしています。

2. 指導の結果と考察 ○成果 ●課題

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

○単元のゴールを具体的に設定したり、教師の知りがっていることのリストを示したりすることで、児童が相手に伝えたいという思いを強くもって、活動に取り組めた。また、リアルな地図を使うことによって、地図により細かい道路を付け足すグループもあったりするなど、自分たちが知っている場所を正しく伝えたいという思いで、活動に取り組めた。

●それぞれの教師の要望を英語教師が伝えるのではなく、児童が教師に直接インタビューして情報を収集する活動を行うと、意欲をより高められるかもしれない。

リアルな地図を使うことで道路が複雑になって表現の難易度が高くなり、道案内を難しいと感じる児童もいた。シンプルな地図で表現をもっと身に付けてから取り組むなど、ステップアップしていけるような指導計画で指導するべきだと考える。

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

○ペアやグループで内容を推敲したり練習したりすることで、自分の思いや考えなど、自信をもって伝えられる児童が増えた。また、相手が何を言ったのか分からないときに聞き返したり、相手が分かっているのか確認したりするなど、相手を意識して伝え合う技能や相手を気遣う気持ちも高まった。

●ペアやグループによっては、話し合いが深まらず、良いところや改善点をうまく相手に伝えることができない児童もいた。教師が失敗の例を演じたり、児童の良いところを取り上げて説明したりすることで、児童に気付かせて自己改善できるような声かけがもっと必要だと思う。

(3) 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実現するための工夫（仮説3）

○スモールトークでは、身近な題材や自然な会話になることを意識して行ったことで、児童もより興味をもって聞いたり、反応したりすることができた。教師も伝え合う楽しさを見せることで、児童たちの伝えたい気持ちや伝わってうれしい気持ちを高めることができた。また、使う英語表現を繰り返し聞くことで、児童は耳から自然と表現に慣れていき、次のアウトプットへの活動へとつなげることができた。

●子供たちの興味を高められるようなスモールトークにするためには、事前にスモールトークの内容を考えたり、ALTとの打合せをしたり、教師が英語を話すための練習をしたりするなど、準備して臨むことが大切である。その時間を作っていくことが課題である。